



Shirakawa since 2001



菊池館長インタビュー

世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」と
法正尻遺跡展

思い出まほろん「海を渡った土偶」

遺跡紹介「古代の郡役所でも一般集落でもない遺跡」

図録「法正尻遺跡」のご紹介



まほろんでは新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に取り組んでいます。

特に体験活動については、職員との接触や近距離での活動を控えております。

ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。



世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」と法正尻遺跡展

語り手 まほろん館長 菊池 徹夫

聞き手 副館長兼学芸課長 本間 宏

穴だらけの姿になるのが普通です。世界遺産への登録にあたっては「完全性」と「真実性」が求められるので、埋蔵された遺跡の背景にある意味をきちんと評価していただけるよう、関係者の皆さんが苦心しました。その結果、採集・狩猟・漁撈で1万年もの長期間にわたり定住生活形態が存続した点と、自然環境に適応した持続可能な生活システムが確立されていた点がきちんと評価されました。地上に露出しているものではなく、埋蔵されている文化財の価値が評価されたということは、北海道・北東北に限らない縄文遺跡群の登録の道が開かれたと考えることができますね。

●そういう意味でも、福島県を含む南東北の縄文遺跡群への理解としっかりとした保存もたいせつですね。法正尻遺跡展の意義も含め、そのあたりのことをお話し願います。

菊池：今回の世界文化遺産登録では、縄文文化が人類史上極めて重要な意義を持つと評価されたわけですから、縄文時代像をより完全な形で明らかにできるよう、列島全域での検討と保存という動きにつながってほしいですね。その中でも、今回の登録対象地域に接する南東北の頑張りは特に重要になると思います。まほろんで今年3回にわたって開催してきた法正尻遺跡展は、1,000年にわたる定住集落の移りわりと特色を明らかにしています。福島県には、このような凄い縄文時代遺跡がまだ眠っているのだろうと思います。記録保存のための発掘調査にとどまらず、その価値をきちんと後世につなげられるような文化財の保護・保存と活用を目指してくださるよう、福島の皆さんのお躍に大きな期待を寄せています。

磐梯町と猪苗代町にまたがる法正尻遺跡は、縄文時代中期（今から約5400年前～4400年前）の集落遺跡です。855点が国の重要文化財に指定されている法正尻遺跡の出土品を3回に分けて公開する企画の第3回「法正尻遺跡展3複式炉の時代」が、10月16日11時から開幕します。併せて、開館20周年記念出版『図録 法正尻遺跡』が出版されます！『法正尻遺跡展』で展示した国的重要文化財はもちろん、今回初公開の資料も多数掲載しています。

また、発掘調査原図に基づき新たに作成した遺構配置図から浮かび上がる法正尻遺跡の知られる姿も大公開します。

まほろんショップで販売します。

あなたの本棚にも、法正尻遺跡を！

●館長が専門家委員会の委員長を務められてきた「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、ついにユネスコの世界文化遺産に登録されました。長い道のりでしたね。

菊池：地元の住民の方々と行政の皆さんとの熱意と根気、文化庁の方々の懸念なご尽力が実を結んだものだと思います。ホッと一安心ですが、むしろこれからが一層大切です。

●今回の登録は、世界史上における縄文時代の特質が評価された点と、地下に埋蔵されている文化財が対象となったという点が重要ですよね。

菊池：海外の「石とレンガの文化」と違って、縄文時代遺跡の多くは「土と木の文化」の所産と言ってもいいので、発掘してしまえば



図録 法正尻遺跡

文：河西久子（学芸員）

福島県文化財センター白河館（まほろん）
開館20周年記念出版

海を渡つた土偶

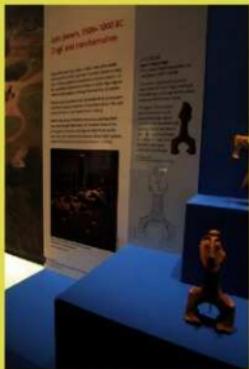
担当職員に聞く
聞き手・大山孝正
専門学芸員



まほろんを出発（平成21年8月6日）



大英博物館外掲ポスター



大英博物館で展示中の荒小路土偶

● 大英博物館で展示されるこ
わせてバリ市内の博物館など

● 郡山市の荒小路跡地出土
したハート形土偶（写真）は、
「生と死」コーナーで展示さ
れています。オープン時のボ
スターや、当時の「まほろん

ガイド」（常設展示回数）の
表紙を飾るなど、まほろんを
象徴する土偶ですが、平成21
年にイギリスの大英博物館で

展示されるため、「海を渡つた
土偶」でもあります。その時
のエピソードなどを、当時ま
ほろんの学芸員として、現地

視察にも行かれた大河原勉さ
ん（現財団事務局総務課長）
にお聞きしました。

● 大英博物館で展示されるこ
の土偶が貸し出されることに
なり、その一つに選ばれた

のです。「下市 POWER OF
DOGU」展は平成21年9月
10日から同11月22日まで開か
れ、その後、東京国立博物館

での文化庁海外展大英博物館
巡回記念「國宝土偶展」でも
展示されることになりました。

● 現地の反響はどうでした
か？

● なぜ、色々とお話を聞くこ
とが出来ました。

● 「まほろん」（学校への
出前授業）と重なり、終わつ
てから急いで帰宅して、出先

したのを覚えています。現地
時間の11月18日にロンドン・
ヒースロー空港に到着し、大

英博物館の挨拶は、11月19日
でした。その後、ドーバー海

峡を渡つてフランスへ入り、
国立考古学博物館などを視察

し11月22日に帰国しました。
「下市 POWER OF

DOGU」展では、「まほろん
（青森県船引1遺跡）や「縄

文のビーナス」（長野県御
畠遺跡）、重要文化財の

「延光器物偶」（青森県地ヶ
崎遺跡）など、日本を代表す
る土偶が多数展示され

ていますが、縄文人が残し
た土偶には、どのような魅

力があると思いますか？

● 展示状況の確認を兼ねて、
ロンドン・パリなどを現地視

察されたそうですが、
大河原：はい。11月17日から
22日まで、私ども1人の方

芸員の2人で大英博物館とあ
とに渡りました。

● 大英博物館で展示されるこ
の土偶が貸し出されることに
なり、その一つに選ばれた

のです。まほろんは、どのよ
うな表現するもの」として、
まだ分からぬことだら

けです。土偶はそうした縄
文人の思考の一端を知る

きっかけとして、重要な考

察をしてきました。当初行
く予定だった学芸員が行けな
くなり、代わりに行くことに
なったのです。出発当日は「お

● 「下市 POWER OF

DOGU」展の

収蔵部小路跡出土土偶」が

コトナーパネルに使用され、

「ハート形土偶」の中でもメ

インの位置に展示されてい

ます。またその姿形美が高い注目

されています。まほろ

んの土偶が、ヨーロッ

パの人たちの目に触れるこ

とができる、まほろんにどっ

か古資料です。まほろんに七

福島県内を見つかった土偶

が、土偶の表情やボーズは

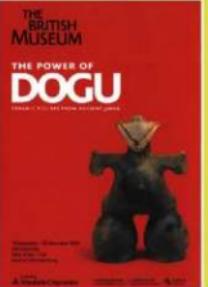
多彩です。縄文時代の表現

豊かでバラエティーに富む

さまざまなおいや生活な

ことを想像してみるのも面白

いと思います。

THE POWER OF
DOGU
EXHIBITION
展示リーフ

表紙の一枚

開館20周年記念の企画展「法正尻遺跡展3」は、10月16日（土）から12月19日（日）まで「複式炉の時代—縄文集落の画期一」をテーマに開催されます。野外展示の「縄文時代の家」は、法正尻遺跡で見つかった住居跡をモデルに復元され、複式炉も再現されています。企画展とあわせてご覧いただければ、まるで縄文人がそこにいるかのような錯覚を覚えるかも知れません。

まほろん 随時更新中！

公式SNS フォロー＆チャンネル登録お待ちしています！

YOU
TUBE



INSTA
GRAM

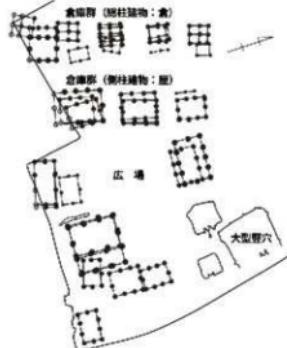


MANORON.OFFICIAL

古代の郡役所でも 一般集落でもない遺跡

文：菅原 祐夫（専門学芸員）

福島県の官衙・集落研究にとって、大変重要な遺跡です。一般的な集落のイメージとはかけ離れた景観に、調査当時（平成6年）は驚きました。現在は、全国レベルの研究が進んでいます。



【郡山市正直C遺跡V地点】



【郡山市田向F遺跡】



まほろん野外展示「奈良時代の家」

古代の拠点的な集落跡を発掘調査すると、「郡役所でも一般集落でもない遺跡」と通称される一角が発見されることがあります。ここでは、東北地方の本格的研究が進む契機となった郡山市正直C遺跡V地点（図左）を紹介しましょう。

正直C遺跡は、陸奥国安積郡の阿武隈川支流（谷田川）の南岸に立地します。古墳時代には手付かずだった台地奥の新規開発に伴い、周辺集落と共に8世紀前半に出現し、9世紀末～10世紀初頭まで営まれました。その中で、V地点は複数の一般集落（図右など）を見下ろす標高の高い位置にあり、「郡役所でも一般集落でもない遺跡」は、ちょうど集落群全体がピークに達する8世紀後半～9世紀前半に存在します。整然と掘立柱建物が並ぶ様子は「官衙（役所）風」と表現するのにふさわしく、多量の食器を保有する大型竪穴建物を構成要素に含む点は、地域開発を主導した有力者の居住施設の側面がうかがえます。

類例には須賀川市沼平遺跡のような小規模タイプ（図中央）もあり、居住者の階層差を反映したようです。

古代の遺跡の性格は単純に色分けされがちですが、こうした二面性を併せ持つ遺跡の存在は、多様な地域社会を示す点で重要です。実は、まほろんの野外展示「奈良時代の家」は、県内の類例の1つ（白河市谷地前C遺跡 27号住居跡）をモデルにしているので、見学の際には、このことを思い出してみてください。

まほろんの主な今後の予定

※各講座・講演会は事前申込制です。

※新型コロナウイルス感染拡大状況等により予定が変更となる場合があります。詳しくはお問い合わせ窓口

まほろんのホームページをご覧ください。

10/16(土) 午前 10時から 12/19(日)

企画展「法正房遺跡展3 梱式炉の時代—構文集

第の画期一

10/16(土) まほろん開館20周年記念式典

10/23(土) 構文時代講座3 「梱式炉を考える」(仮)

定員 24名 9/23(木) 午前 10時から申込受付開始

10/31(日) 実技講座「土器づくり初級編」

定員 5組 (1組 2名まで) 9/29(水) 午前 9時半から申込受付開始

11/6(土)・7(日) 移動水族館「アクアラバン」

11/13(土)・14(日) 構文時代セミナー「構文集落と葬制の画期」

定員 24名 10/13(水) 午前 10時から申込受付開始

12/11(土)・12(日)・14(火)～16(木)・R4 3/6(木)

実技講座「土器づくり上級編」

定員 8名程度 11/11(木) 午前 10時から申込受付開始

12/18(土) 第3回體長講演会

定員 24名 11/18(木) 午前 10時から申込受付開始

申込受付開始

編集後記

コロナ禍が長期化する中で、開館20周年記念式典が規模を縮小し、毎日に行われます。同日には当館収蔵の国指定重要文化財「法正房遺跡出土土器」等を展示する企画展の第3弾が開幕。この20年ともに、繩文の、いにしえにも思ひを馳せてみたいものです。

